

口頭発表「岐阜県発『いのちの授業』奮戦記」

加藤 樹夫



というテーマで、全国に先駆けて『いのちの授業』に取り組みました。



この授業は、ひとりの獣医師の発案から始まりましたが、現在、教育界と獣医師会の一大コラボレーション事業として、大きく展開しています。

この事業の創生期から携わった者のひとりとして、その立ち上げの経過と奮戦ぶりを4つのチャプターに分けて紹介します。

1 はじめに

平成19年から、悲惨な事故、いじめ、殺人事件など暗い世相を背景として、岐阜県獣医師会は、「子どもたちに、様々な分野で働いている獣医師を通して『命』を考えてもらう」

2 経過

◎第I章 野望編

開 始	<p>○平成18年9月，一人の獣医師から，「働く獣医師」を子どもたちに紹介する出前授業の提案</p> <p style="text-align: center;">----- 野望=大人の損得勘定・見えはりの -----</p> <p>気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「動物病院のほかにも多くの獣医師がいることを知ってもらおう」 ・「ぜひ獣医師をアピールするチャンスにしたい」 ・「感性豊かな子どもに『命』を教えよう」 ・「何か共通のテーマで話したらどうか」 ・「ひとつのストーリーに沿って話そう」 <p>○平成18年10月，メインテーマ『いのちの授業』，7回シリーズ，担当講師，概略ストーリーの決定</p>
-----	---

◎第II章 苦悩編

準 備	<p>○平成18年11月，検討会の開始．各担当からサブテーマの原案説明</p> <p style="text-align: center;">----- 苦悩=不安とふたつの苦しみとの戦い -----</p> <p>不安 ⇒ 抽象的な方向性，具体的な考えが曖昧模糊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何から手をつけていいのか，わからない」 ・「アイデアが浮かばない」 ・「どうして私が担当なの？」 ・「使命感よりも，毎日，仕事に追われるだけ」 <p>苦しみ① ⇒ 検討会における入念なチェックと指導</p>
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・「矢のような鋭い指摘」(ダメ出しの雨, 嵐) で放り出したい気持ち <p>苦しみ② ⇒ マスコミによる『いのちの授業』の取り組み紹介. 大きな反響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「周囲の大きな期待」がプレッシャーに, 大きなあせり
--	---

◎第三章 死闘編

準備	<p>○平成18年11月～19年3月, 5ヶ月間に及ぶ発表内容の検討</p> <p style="text-align: center;">----- 死闘=3つ目の苦しみと迷いと -----</p> <p>戦い</p> <p>苦しみ③ ⇒ 大人と子どもたちの「暗黙知のギャップ」 (経験や知識, 勘などの差により認識度や理解度の違いがでることの意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを相手にする「3つの心得」, 「ダメ3つ」 <p>「3つの心得」…「素朴な疑問を投げかける」, 「本質を躊躇なく突く」, 「ごまかしは効かない」</p> <p>「ダメ3つ」…「常識, 推測できるはダメ」, 「あいまいな表現はダメ」, 「大人の普段の言葉や専門用語はダメ」</p> <p>迷い ⇒ 刺激の強い場面 (と畜場でのと殺場面) を見せることの是非</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「獣医師は, 物言えぬものを相手に仕事をしている」 ・「獣医師は, 相手の気持ちを想像するのが最も得意」 ・「獣医師らしく, 獣医師しかできない, 獣医師の務めとして」決心 																								
授業	<p>○平成19年4月～7月, 羽島市内の小学校(6年生), 中学校(3年生)を対象に授業開始</p> <p>★『いのちの授業』全7回シリーズ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">シリーズ</th> <th style="width: 55%;">サブテーマ</th> <th style="width: 30%;">担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・第1回</td> <td>「人と動物のきずな」</td> <td>動物病院</td> </tr> <tr> <td>・第2回</td> <td>「保健所へ行くとどうなるの!？」</td> <td>公衆衛生(市保健所等)</td> </tr> <tr> <td>・第3回</td> <td>「おいしい食べものができるまで」</td> <td>診療, 畜産(市・県)</td> </tr> <tr> <td>◎第4回</td> <td>「食べものの安全と安心」</td> <td>公衆衛生(県保健所等)</td> </tr> <tr> <td>・第5回</td> <td>「薬は動物に力を借りている？」</td> <td>実験動物施設</td> </tr> <tr> <td>・第6回</td> <td>「野生のいのちが教えてくれること」</td> <td>動物病院</td> </tr> <tr> <td>・第7回</td> <td>「獣医さんになるための勉強」</td> <td>大学の先生・生徒</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	サブテーマ	担当者	・第1回	「人と動物のきずな」	動物病院	・第2回	「保健所へ行くとどうなるの!？」	公衆衛生(市保健所等)	・第3回	「おいしい食べものができるまで」	診療, 畜産(市・県)	◎第4回	「食べものの安全と安心」	公衆衛生(県保健所等)	・第5回	「薬は動物に力を借りている？」	実験動物施設	・第6回	「野生のいのちが教えてくれること」	動物病院	・第7回	「獣医さんになるための勉強」	大学の先生・生徒
シリーズ	サブテーマ	担当者																							
・第1回	「人と動物のきずな」	動物病院																							
・第2回	「保健所へ行くとどうなるの!？」	公衆衛生(市保健所等)																							
・第3回	「おいしい食べものができるまで」	診療, 畜産(市・県)																							
◎第4回	「食べものの安全と安心」	公衆衛生(県保健所等)																							
・第5回	「薬は動物に力を借りている？」	実験動物施設																							
・第6回	「野生のいのちが教えてくれること」	動物病院																							
・第7回	「獣医さんになるための勉強」	大学の先生・生徒																							



『いのちの授業』 第4回 食べものの安全と安心 (SUMMARY)



みなさんの好きな食べものはなんですか？「いつも好きな食べものを、おいしく食べることができたらいいな」と望む人はたくさんいることでしょう。

では、「安全な食べものを食べたい」と考えたことがありますか？毎日の生活のなかでは、食べものが安全で、安心であることがあたりまえのように思われています。それは、食べものが安全に食べられるようなしくみがあるからです。

今回の授業は、『食べものの安全と安心』というテーマです。食べものにかくれている病気や事故の原因を紹介し、みなさんの知らないところで、その危険を取り除く仕事をしている『人の健康を守る獣医師』の活躍をお話します。

大好きな食べものはなに？

- みなさんの好きな食べものはなんですか？
- 好きな食べものを頭の中に、思い浮かべてください

よく食べられているお肉

- ウシ、ブタ、ニワトリ・・・

安全で安心なお肉が食べられるまで

- 食肉処理施設「と畜場」とは、どんなところですか？
- お肉の検査

寄生虫という小さな生物

- 寄生虫とはどんな虫ですか？
- いろいろな寄生虫

「食べる」ということ

- 生きていくのに必要な「食べること」

食中毒

- 食べものにかくれている病気や事故の原因
- 食中毒はどのようなしくみで起こるのですか？

食の安全

- 食べものの安全、安心とは、どんなことですか？
- 人の健康を守る獣医師

-----> 『いのちの授業』 第4回 「食べものの安全と安心」（と畜場の場面(抜粋)）

食肉処理施設への搬送



前回、農家のみなさんが、大切に育てた牛や豚を、出荷するお話がありました。農家の人が愛情を込めて育てた牛や豚は、食肉処理施設「と畜場」という所へ運ばれます。と畜場は、牛や豚などを食用のために、殺して、バラバラにする施設をいいます。これを「とさつ」、「解体」といいます。ここでも獣医師は活躍しています。

「と畜場」では、獣医師が「と畜検査」を行います。「と畜検査

と畜検査って何？

と畜場



と畜検査」とは、みんなが、お肉を安心して食べることができるように、安全かどうか色々な検査をすることです。

「と畜検査」の一番目は、「生体検査」です。牛の様子がおかしくないかを診察します。

そして、とさつ銃で「とさつ」し、つまり、

とさつ



ここで命を絶つことになります。毎日、毎日、みんながおいしく食事できるように、動物の命を絶つ仕事をしている人たちがいます。誰もが、動物の命を絶つことはやりたくありません。けれども、みんなが健康でおいしい食事をするために、牛や豚は命をささげ、その命を絶つ仕事をしている人

たちがいます。誰もが、動物の命を絶つことはやりたくありません。けれども、みんなが健康でおいしい食事をするために、牛や豚は命をささげ、その命を絶つ仕事をしている人

たちがいます。みんなの知らないところで、いやな仕事を、つらいけどがんばって一生懸命働いている人たち。いやでも、つらくても大勢の人が喜ぶ、笑顔のために我慢ができます。

3 『いのちの授業』の進化（編）～子どもたちの取り組み～

小学校において、全7回シリーズの授業終了後、クラスごとに「自分たちの興味があること」について、約8ヶ月間、『いのちの授業』の追求学習を行いました。

(1) 体感学習

児童は、クラスごとに、7回シリーズの

サブテーマから、興味ある事項を選定（複数）し、関係施設を訪問しながら、働く獣医師の生の姿を見て、声を聞き、現場を見学、体験しました。

(2) まとめの作業

①授業で学んだこと、②施設の体感学習、③インターネット等での情報収集（調査）

これら①～③により、『いのちの授業』+学習結果のまとめの作業を行いました。

(3) 発表会『12歳の提言』～自分の生き方を探ろう～と題して、まとめの作業の成果発表会を行いました。

【発表会でのクラス別テーマと主旨】

○1組 生かされている私達、葉の矛盾

⇒ 人の命は、自然や動物に助けられ生かされている。

○2組 つながりの中で生きている私達、食べ物と人

⇒ 動物の命は動物から人、人から人へと受け継いでいる。

○3組 いのちをあやつっている私達、動物と人のつながり

⇒ 人は動物や自然と共に生きている。

○4組 いのちを守る努力が必要な私達、誕生の奇跡

⇒ みんなの命は、みんな一緒に守っていかなければならない。

○5組 自分勝手さでバランスをくずしてきた私達、野生の動物から学ぶ

⇒ 地球はみんなのもの、人だけの身勝手は許されない。

子どもたちは、触る楽しさ、誕生の喜び、捨てる哀れみや粗末にする怒りなど喜怒哀楽などの感情的なものを心に留めると思われました。

しかし、身近な動物たちの多様な一生とともに毎日、仕事をしている人がいること。そして、その動物や人と自分たちは深いつながりがあり、生きるもの同士の「絆」を感じて、今一度、自分たちの生き方を見つめようと心に刻んでくれました。

4 『いのちの授業』進化の要因「七不思議」

(1) 実体験に基づくノンフィクションであったこと

(2) 多彩な講師による変化に富んだ内容であったこと

(3) 授業の準備に十分な時間と労力を費やしたこと

(4) ひとつのフォーカスしたテーマで、3ヶ月間、7回、授業が継続的に繰り返されたこと

(5) 興味あるものについて、体感学習ができたこと

(6) 自分たちのものとして、まとめる作業『12歳の提言』を行ったこと

(7) 取り組み『12歳の提言』～自分の生き方を探ろう～が評価を受け、ほめられたこと

5 まとめ

『いのちの授業』は、子どもたちにとって、自他の命を軽んじる風潮のなか、言葉だけでは伝えきれない大切なこと＝『命』を感じ、それを見つめ直す機会となりました。また、獣医師会にとって、働く環境が異なるものの、同じ志と使命を持つ仲間同士のつながりを、

改めて再認識させることとなりました。

これは、教育現場と獣医師会の大きな協力関係により実現し、両者の連携をさらに強化しながら、双方の関係について、新しい方向性を考える好機となりました。

この授業の取り組みは、獣医師会や教育界のみならず、動物愛護団体、市会議員、保護者を含めた一般市民、マスコミなどに大きな

反響がありました。

現在、この授業は、3ヵ年計画の延長、羽島地域から県全体へと実施場所が拡大し、講師や授業内容も充実し、発展し続けています。この地域から発信した「いのちの輪」が、広く全国へ届けと願っています。

(岐阜県獣医師会)

